

図書館の仕事体験

〈中学2年生の職場体験授業〉

平山図書館では、7月の2日間、中学2年生2名の職場体験を行いました。事前の打ち合わせで、持ち物・服装の確認や、図書館のパンフレットを渡しておいたためか、当日は、体調万全で仕事に取り組めたようです。初日は、仕事をする上での注意事項（利用者にはちゃんと挨拶をすることや、プライバシーに配慮することなど）と、図書の種類記号や、書架整理の意義など説明をした後、窓口で本の返却・貸出、返却された本を書架の定位置に戻す仕事に就いてもらいました。2日目は、書架整理や予約が入った本を書架から探す仕事もしてもらいました。特に後者は、本の探偵になったような気分がするようでした。2日間はあつという間だったようです。

〈夏休みジュニア・スタッフ〉

今年も、中学生が図書館の仕事を体験する、「夏休みジュニア・スタッフ」を募集しました。7月下旬の4日間の開館前の約1時間、ブックポストに入っていた本と、図書館間連絡便で到着した本の返却処理や、当日の新聞を定位置に出したり、書架整理などをしてもらいました。終了後のアンケートには、「学校の図書館より本格的だ。本に関わる仕事がしたい。めっちゃめっちゃ楽しかった。」と嬉しい感想が書かれていました。



(図書館)

中央公民館青少年事業 「里山へ行ってみよう！」

中央公民館高幡台分室では、昨冬から小学生を対象に、生物多様性や生態系について自然の中で体験し、学ぶ機会とする「里山へ行ってみよう！」と題した子どもたちにもおもしろく、わかりやすい環境学習の講座を実施しています。

今年度は、夏（7月30日）にサタイトルく夏の里山は虫たちのパラダイスと題して、講座を実施しました。この日は、調査のフィールドを都立七生公園（程久保地区）としました。跳ね回る虫、飛ぶ虫、木陰に

住む色々な虫たちを目の当たりにして、参加した子どもたちはそれらを追い掛け回し、時には虫眼鏡でじっくりと観察していました。また公園の植物の樹皮や葉っぱの見た目や手触り、におい等、それぞれの違いを確かめ、講座の講師から興味深い説明を受け、まさに五感を縦横無尽に駆使した楽しい講義となりました。

今後、「里山へ行ってみよう！」く秋編、く冬編として引き続き実施しますので、小学生の皆さんには是非ご参加いただき、豊かな自然の残るわがまち・日野を楽しんでいただけたらと思います。

(中央公民館)

日野市民スポーツフェスティバル 開催のお知らせ

第21回

10月10日（祝）は体育の日です。この日、市民陸上競技場で第21回日野市民スポーツフェスティバルが開催されます。幼児から高齢者までなたでも楽しめる種目をたくさん用意しています。スポーツの秋に気持ちよく体を動かしましょう。

【日時】

10月10日（祝）午前9時30分から午後3時20分

【会場】

市民陸上競技場（案内図参照）※日野駅、甲州街道駅から徒歩10分

【主な種目】

綱引き・パン食い競争など会場には模擬店・販売コーナーを設置 ※雨天の場合は一部プログラムを変更し、1中・仲田小体育館で実施。駐車場がないため、公共交通機関でご来場を。



(文化スポーツ課)

「ロープジャンプエクストラ」にチャレンジしよう！

日野市では、平成25年に開催される第68回国民体育大会開催を契機に、子どもの健康増進・体力向上の推進事業として「げんきつづプログラム」を、教育委員会と連携して取り組んでいます。このプログラムの一環として今年度から、「ロープジャンプエクストラ」（大なわとび）を各小学校へご提案しています。クラスが一体となりみんなが笑顔になるスポーツです。

また、平成24年3月11日（日）には小学生大会も予定しています。小学生の大きな思い出づくりに是非チャレンジしてみてください。



(文化スポーツ課)

日野ジュニア・アスレチッククラブ

〈通称〉日野JAC

日野JACは日野市における陸上競技の普及と児童の体力向上、心身の健全な育成等を目的に3年前に小学3年生く6年生を対象に日野市陸上競技協会がクラブを設立し、活動を始めました。現在は60名のメンバーが毎週土曜日に市民陸上競技場で練習しております。クラブは年間事業計画により、合宿練習、親子大会等を盛り込み、楽しみながら技術の向上をはかっております。

今年は東京都小学生記録会、クラブ対抗、全国大会都予選会等に出場し、好記録を残しました。今年5月1日に行われた東京選手権では小学生招待4×100mリレーで4位、又、日野JAC卒業生の大坂上中学2年生石川優鈴さんが女子1500mで4位になりました。有望選手が育っておりますので今後が楽しみです。

日野JACの詳細は日野市陸上競技協会のホームページをご覧ください。



(文化スポーツ課)

特別展 「真慈悲寺と百草観音堂」

「時代を越えて育まれた仏像群」

日野市郷土資料館は、日野市百草の地にあつたのではないかと考えられている中世の大寺院「真慈悲寺」と、その後江戸時代に開かれた「百草観音堂」を中心とした特別展を開催します。資料館では一般市民から募集したボランティアの皆さんと一緒に、5年間にわたりこの真慈悲寺について調査を続けてきました。

観音堂の中には平安時代から江戸時代にかけての仏像四体と僧の姿を表した像が二体並んでいます。本尊は聖観音菩薩立像（しようかんのんぼさつりゅうぞう）です。十二年に一度だけしか公開されません。今回の特別展では、初めて堂内の仏像群が全て一同に展示されます。大切な仏像をまじかに見ることができるとも貴重な機会です。ぜひ特別展においでください。



(真慈悲寺指定地出土の中世瓦 日野市指定有形文化財)



百草観音堂仏教彫刻群 (日野市指定有形文化財)

鎌倉時代の歴史書である『吾妻鏡』（あずまがみ）には、平安時代の末頃の真慈悲寺は経済的に頼るものがなく、荒廃していたこと、有尋（ゆうじん）という名の真慈悲寺の僧が源頼朝を尋ねて鎌倉幕府の庇護を願い出たと書かれています。鎌倉幕府のバックアップを受けた真慈悲寺は数年で一躍大寺院へと姿を変えます。この真慈悲寺のお堂の屋根に葺かれた可能性のある瓦が京王百草園の中

で発掘されました。この瓦の出土が、真慈悲寺がこの地にあつたのではないかと推定する手がかりとなっています。また、過去8回の発掘調査から、真慈悲寺の頃の建物の跡が次第に明らかになってきました。特別展では、出土した瓦の分析や発掘調査の結果から真慈悲寺に迫ります。

【百草観音堂】
江戸時代になると、百草の地には、新たに柘井山松連寺（ますいさんしょうれんじ）というお寺と百草観音堂が建立されました。

観音堂の中には平安時代から江戸時代にかけての仏像四体と僧の姿を表した像が二体並んでいます。本尊は聖観音菩薩立像（しようかんのんぼさつりゅうぞう）です。十二年に一度だけしか公開されません。今回の特別展では、初めて堂内の仏像群が全て一同に展示されます。大切な仏像をまじかに見ることができるとも貴重な機会です。ぜひ特別展においでください。

■期間：10月12日（水）から12月18日（日）まで
■会場：日野市立新選組のふるさと歴史館
■開館時間：9時半から17時（入館は16時半まで）
■休館日：毎週月曜日
■入館料：大人200円、子ども50円